

今日の情報社会の発展に伴い、人々の認知様式が従来のものと比べて大きく変化していることに疑いを持つ者は少ないだろう。Dummy Space は、本展示形式「異空間同時展示」を実施する際に、その変化において現れている問題に行き着いた。それは、社会によって提示される多量の情報を処理する必要に迫られた人々が、情報量が自身の処理能力を超えてしまうがために、情報の大部分を無視し、それについての深い検討を放棄してしまっているということである。この現象がわかりやすい形で現れている卑近な例はインスタグラムや twitter を初めとする SNS に見ることができる。SNS では、多数の発言・画像が立ち並ぶが、人はそれらを一瞥したのち、多くの情報には注意を払うことなくスクロールと共に通り過ぎる。こういった多情報を無視するという人間の性質は、我々の推測の域に止まらず、科学的事実裏打ちされている。シーナ・アイエンガーの行った人間の選択に関する実験では、店頭で試食用のジャムを6種類設置した場合と24種類設置した場合を比べたところ、前者では試食した人のうち30%がジャムの購入に至ったのに対し、後者ではたったの3%だったという。

では、この多情報を浴びせられていることによる情報の素通りはなぜ問題と言えるのだろうか。この疑問への答えは、情報を無視することに慣れきった人々が、次第に情報一般に対して深く検討しなくなる癖を身につけるのではないかという懸念が生じる点にある。通常 SNS などにおいて注視する情報と無視する情報では圧倒的に後者の量の方が多い。すると必然、情報について熟慮しない経験は増えるため、検討を放棄する癖が付くのも自然と言えよう。

さらに、人々が考慮を放棄する性質を獲得していくにつれ、それに対応し人間のために作られるもの・ことは単純化し、ある意味で洗練されてゆく。その結果が Apple のような、アイコンックで、思考を放逐した人々がそれを自身のアイデンティティとして疑いもなく導入することのできる“やさしい”製品である。Dummy Space では、この危機を、物事の核を求め・見極める性質を意味する独自の言葉である「求核性」の剥奪と名付けている。

本作品はそういった傾向に歯止めをかける有効な手段たりえることをここで主張したい。

ダニエルカーネマン著“ファスト&スロー”では、人間の直感的な思考と意識的な思考をシステム1とシステム2と呼称・分類している。つまり、上述の説明に則れば、失われていくシステム2的な思考の比重を増やす必要があるということになる。本作品は、鑑賞者が相対した時に、本物か偽物なのかという問いかけに否応無く思い至る仕組みになっている。鑑賞者が本展示を理解した気になるには、一瞬眺めたのちに足早に通り過ぎるような態度は許されず、一度立ち止まり顎に手を添えて思考することが求められるのだ。この時点で、既に一般的な美術作品を漫然と眺めるだけの鑑賞とは違い、意識的な思考が呼び覚まされているのである。さらに、カーネマンは先に挙げた著書において、「普段システム1は自動的に働き、システム2は努力を低レベルに抑えた状態で作動しているが、システム1では答えが出せない問題に直面した時、システム2が動員される」と述べているが、本作品において、鑑賞者が映像を通して他の鑑賞者と同じものを見ていることを確認した時に襲われる不思議な感覚は、まさに「システム1では答えの出せない問題に直面している状態」が引き起こしたものに他ならない。つまり、本作品においては、この感覚こそが非意識的 / システム1的鑑賞から意識的鑑賞 / システム2的鑑賞へと誘う入り口であるのだ。繰り返しになるが、要旨をまとめると本作品は、意識的な鑑賞が付随するがゆえに、人々に熟慮という営みを与える作用を持つ。

誤解しないでいただきたいのは、本展示はシステム1を軽視したコンセプトで作られているわけではないということである。全ての情報を処理することなどできない人間にとって、瞬時に判断を下してくれるシステム1は有用な機構であるが、本展示はシステム1に対しても結果的に良い影響をもたらしている。カーネマンは、著書において「適切な訓練を積み重ね、専門技能を磨き、それに基づく反応や直感を形成できる」としている。これは、すなわち、将棋棋士が理詰め（システム2）を積み上げることにより、対局の重要な局面で直感が働き、意識的な思考なしに有効な手を打つことができる（システム1）のと同様に、本展示によりシステム2を誘起させられるということは、システム1を鍛えられることにもつながる、ということの意味しているのである。

最後に、一部の人々だけでなく人類全体が額に汗して考えることがなぜ必要なのかを概説して本稿の結びとしたい。

資本主義社会の現在、人々の良いと思うものに財が投じられ、それが発展してゆくという原理が存在する。もし、本質的に価値があるもの（「本質的な価値」などと言うものを定義できるとしたら。本質的か、表層的かをどう定量化するのか、と言う議論はさておき）を人々が見分けられなくなってしまうと、表層的なものにばかり財が投じられ、当然のものとして期待されていた、時の経過に伴う発展は衰退へと変わっていくだろう。それを防ぐには、個々人が真摯に思考を巡らせることが、少なくともなくてはならない。これこそが、個々人の熟慮が必要となる最大の理由である。本作品が示唆する熟慮を携えた社会の到来を切に願う。

出典：

・シーナ・アイエンガー 選択をしやすくするには

[https://www.ted.com/talks/sheena\\_ayengar\\_how\\_to\\_make\\_choosing\\_easier/transcript?language=ja](https://www.ted.com/talks/sheena_ayengar_how_to_make_choosing_easier/transcript?language=ja)

・ダニエル・カーネマン 『ファスト&スロー』

ハヤカワノンフィクション文庫 2014年初版出版